

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年1月31日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから1月31日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

あしたの委員会の定例会の議題は2件です。

まず、1件目が、1F（福島第一原子力発電所）の中期的リスク低減目標マップの改定の1回目です。

これは毎年この時期に改定をしているものでありまして、今回は改定案を示して意見を聞きまして、その後、監視・評価検討会を開催して関係者の意見を聞くということを経るものになっています。

特に目新しい改定があるというわけではないですが、固形状の廃棄物の問題が重要になっていることを受けて、その部分の記述が去年のとかに比べると充実した中身になるという感じの案になっています。

議題の2件目ですけれども、高度被ばく医療支援センターの新規指定に向けた確認ということで、高度被ばく医療支援センター、これは、現在、全国で5機関、4つの大学とQSTが指定されていますけれども、新しくもう一個指定するということに向けまして、その候補となる機関について、今後、指定要件の適合確認をしていきますという方針を経るものになります。

次ですが、(2)のところでも、あしたの夕方には非公開の臨時会議があります。

議題は、柏崎刈羽の追加検査の状況の報告です。

次が、(3)のところでも、あさってにも非公開の臨時会議があります。

議題は2つで、2つとも国際関係ということになりまして、1つ目が原子力安全条約の国別報告書への質問への回答ということで、これは12月21日と1月18日に続いて3回目という議題ですけれども、そういうものです。

2つ目は、国際アドバイザー会合の議題案ということで、これは国際アドバイザーというものを委嘱してまして、例えばアメリカのNRCの元委員長のメザーブさんなどに頼んでおるものですが、年に2回ぐらいお集まりいただいて会合を開いて、原子力規制をめぐるいろいろなトピックについて自由に御議論いただくという会議ですけれ

ども、そういったものがありまして、今年も春と秋に2度ほど開催を予定してありまして、それについて何を議題にしましょうかという討議をするものになります。

次に、3ページ目、2月6日の(7)、核燃料施設等のほうの審査会合です。

議題は1つで、常陽です。

引き続き火災について、前回1月24日のコメント回答などでありまして、常陽の審査はそろそろ大詰めといったところになっております。

次に、2月6日の(8)ですけれども、緊急時活動レベルの見直しへの対応に係る会合ということで、特定重大事故等対処施設が議題になりますので非公開になります。

これも継続的にやってきたものでありまして、特重ができたことに伴うEAL(緊急時活動レベル)の見直し、これをBWR(沸騰水型原子炉)についてもするというものになっていましたけれども、その点について引き続きのものということになります。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

ワタナベさん。

○記者 時事通信のワタナベと申します。よろしく願いいたします。

資料の外の関係で申し訳ないのですが、昨日あった関西電力高浜原発の自動停止に関してなのですが、その後、原因等について関電から報告が入っていたり、何か動きはありませんでしょうか。

○黒川総務課長 それは私自身が報告を受けていなくて、報告を受けているかどうかも聞いていないですが、特に新しい情報が入ったということはないと思います。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—